

令和7年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

令和7年6月

東京都教育委員会

は じ め に

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校等の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和7年2月21日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約35,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校等においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

区市町村教育委員会、中学校等及び高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和7年6月

東京都教育委員会

目 次

I	令和7年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

I 令和7年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らし、基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようになる。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を公表することで、中学校、義務教育学校及び高等学校等における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

令和7年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和7年2月21日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数を抽出した。
小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
31,414人	31,415人	31,266人	34,999人	34,998人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
151校	151校	150校	160校	160校

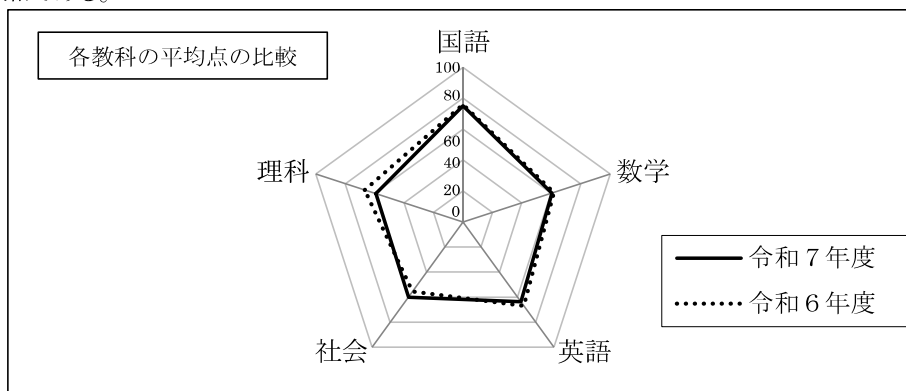
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
75.0点 (75.9点)	60.4点 (61.7点)	63.7点 (66.9点)	59.9点 (55.5点)	59.2点 (66.8点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるという採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、令和6年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

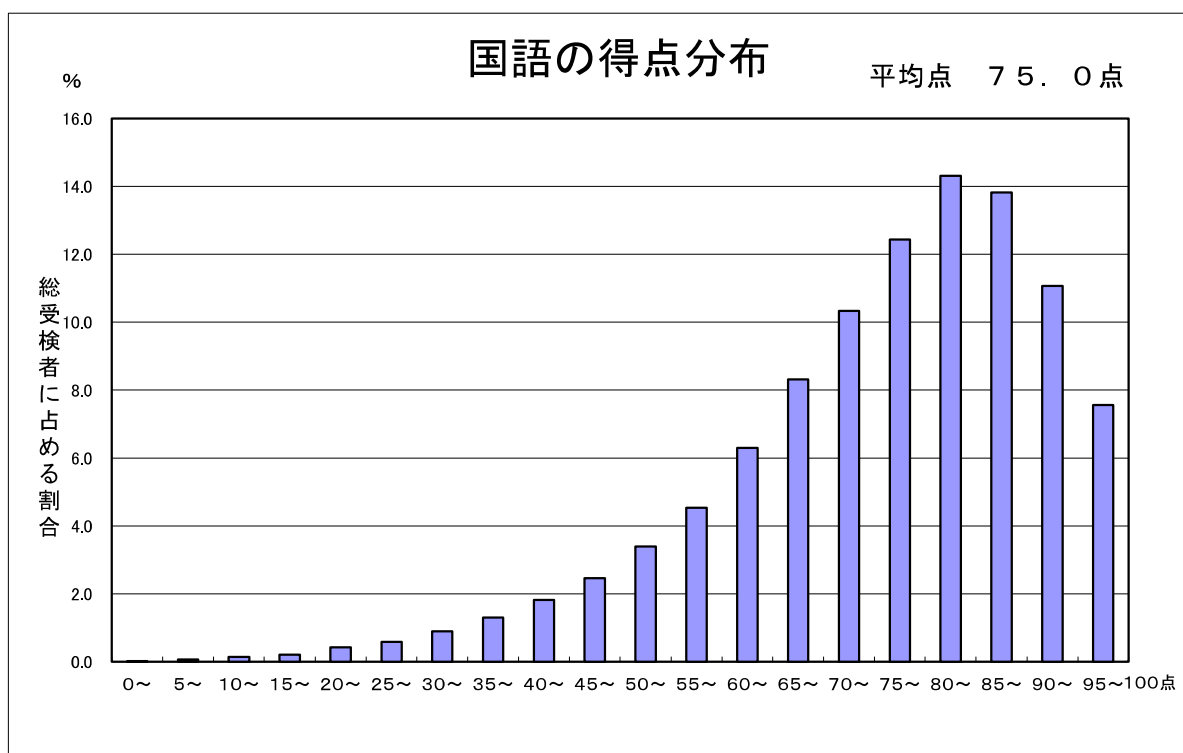
ア 出題の方針

国語の特質に関する理解や伝え合う力、思考力、想像力など国語で正確に理解し適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、発言の意図や役割を理解することを通して伝え合う力をみるとともに、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する知識をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は75.0点となり、昨年度より0.9ポイント下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度と同様に80点～84点となり、85点以上の受検者の割合が34.1%から32.5%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 小学生の主人公たちが名付け親になったオオタカのヒナを見守りながら成長する姿を描いた小説を読み、表現の特徴や登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる問題とした。
- 4 文化の進化について述べた説明的な文章を読み、叙述や文脈に即して内容や段落の役割、筆者の主張を正しく読み取る能力をみる問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に論理的に表現する能力をみる問題とした。
- 5 和歌に関する複数の文章や、原文とその現代語訳の一部を読み、要旨を的確に捉える問題、対談における発言の役割を理解することを通して、伝え合う力をみるとともに、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関する知識をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (2)「ひやく」と表記する誤答が多かった。
- 2 (5)「券」の部首を「力」と表記する誤答が多かった。
- 3 〔問1〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、主人公の様子を印象的に述べるための表現の工夫について正しく捉えられなかったためと考えられる。また、〔問3〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「ぼくを見ている」ときの登場人物の心情について、描写に即して正しく読み取ることができなかったためと考えられる。
- 4 〔問4〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、「前者だけが長い年月を経て非常に優れた技術まで達成できることが示唆された」と述べた理由について、「技術の細部まで伝達する社会」の指し示す内容を明らかにすることができなかったことにより、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができなかったためと考えられる。
- 5 〔問5〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、俊成の考えについて、複数の文章から情報を整理することができなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	97.9%	89.2%
	(2)	2	71.6%	
	(3)	2	94.2%	
	(4)	2	97.9%	
	(5)	2	84.4%	
2	(1)	2	78.0%	65.9%
	(2)	2	74.6%	
	(3)	2	54.7%	
	(4)	2	81.7%	
	(5)	2	40.6%	
3	※〔問 1〕	5	78.9%	82.0%
	※〔問 2〕	5	77.9%	
	※〔問 3〕	5	75.1%	
	※〔問 4〕	5	88.4%	
	※〔問 5〕	5	89.8%	
4	※〔問 1〕	5	71.2%	☆68.7%
	※〔問 2〕	5	78.8%	
	※〔問 3〕	5	66.7%	
	※〔問 4〕	5	49.2%	
	〔問 5〕	10	☆77.4%	
5	※〔問 1〕	5	66.3%	58.5%
	※〔問 2〕	5	59.8%	
	※〔問 3〕	5	55.0%	
	※〔問 4〕	5	65.0%	
	※〔問 5〕	5	46.1%	

(注 1) ☆は部分正答も含めた割合
(注 2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率の高さから、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考える。一方、2の誤答の内容から漢字の構成要素を正しく理解し、漢字を正しく用いる能力が十分ではないと考えられる。実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導などが必要である。
- (イ) 3の〔問3〕の他と比較した正答率の低さから、登場人物の心情について、描写に即して正しく理解する能力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、その内容や考えたことについて、文章の一部を引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする言語活動を通して、場面の展開や登場人物の相互関係、心境の変化などについて描写を基に捉える資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。
- (ウ) 4の〔問4〕の正答率の低さから、具体例から読み取れる事実と筆者の意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する能力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握する能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。
- (エ) 5の〔問5〕の正答率の低さから、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、文章の内容を正しく理解する能力が十分ではないと考えられる。情報の適否を見極めながら整理して読み進める資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。

(2) 数学

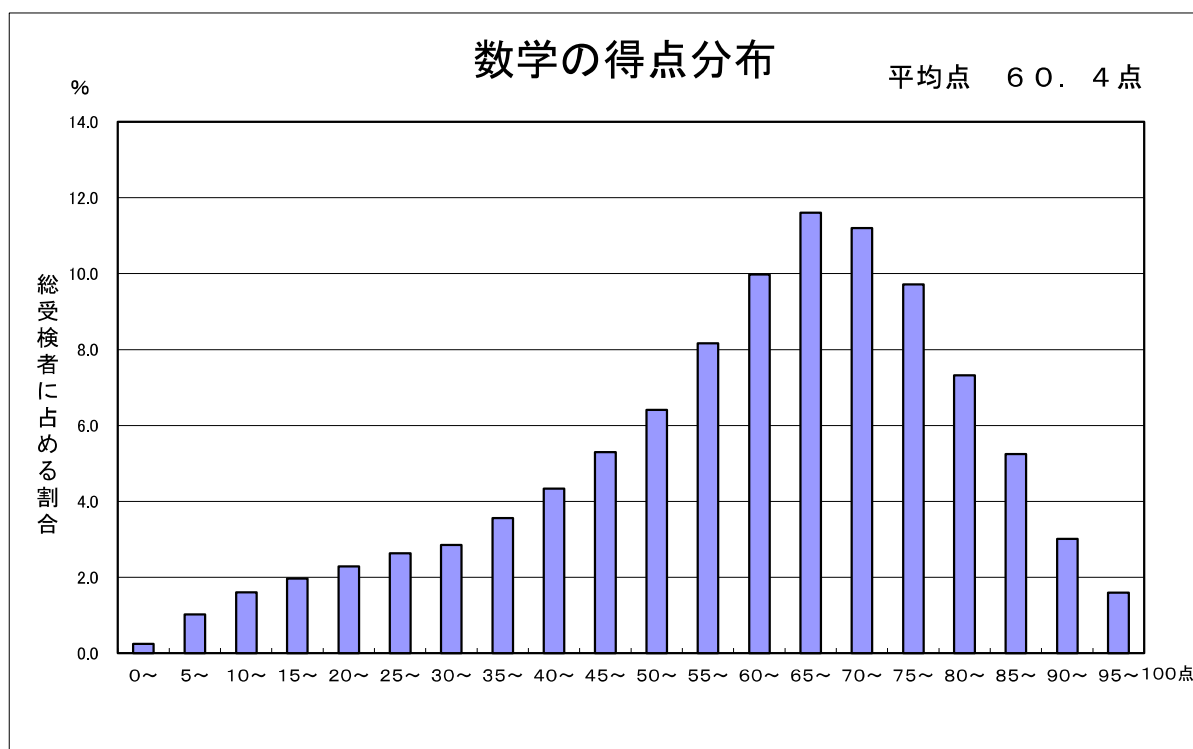
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみるとともに、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，関数，データの活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方・考え方を働かせ，事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識及び技能をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識及び技能をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識及び技能をみるとともに，図形の性質や関係を直観的に捉え，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は60.4点となり，昨年度より1.3ポイント下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度と同様に65点～69点となり，80点以上の受検者の割合が19.8%から17.2%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる問題とした。
- 2 円周上に並んだ自然数を題材として、向かい合う自然数の間に成り立つ関係について、数理的に考察し文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 一次関数を題材として、座標を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、座標平面上の三角形の面積について考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 半円を素材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の合同を証明する問題、平行線を見いだすなどして図形の面積比を求める問題とした。
- 5 直方体を題材として、底面と高さに着目し四角すいの体積を求める問題、直方体の中にできる三角形の面積を求める問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問2] では、 $\frac{4a-11b}{5}$ という誤答が多かった。これは、通分して計算する際に、 $-a+2b$ を $\frac{-5a-10b}{5}$ にしたためと考えられる。[問8]

では、確率の分母を5としていない誤答が多

かった。これは、5枚のカードから3枚のカードを取り出す方法が何通りあるかを正しく求められなかったためと考えられる。[問9] では、 $\angle B$ と $\angle C$ の二等分線の交点をPとする誤答が多かった。これは、頂点B、頂点Cまでの距離が等しい点は、それぞれの角の二等分線上にあると誤認したためと考えられる。

- 2 [問2] では、部分正答を含めて正答率が20.4%、無答率が53.2%であった。これは、向かい合う点の番号の関係を正しく捉えることができず、PとQを a, b, c, d を用いた式で表すことができなかったためと考えられる。
- 3 [問3] では、誤答率が48.0%、無答率が37.3%であった。これは、2つの三角形の面積を点Pの x 座標を用いて表すことができず、2つの三角形の面積の関係式を作ることができなかったためと考えられる。
- 4 [問2] ②では、誤答率が75.1%、無答率が21.2%であった。これは、中心角と円周角の関係から等しい同位角を見いだすことができず、解答を導くために必要な平行線を捉えることができなかったためと考えられる。
- 5 [問1] では、誤答率が47.0%、無答率が8.9%であった。これは、直方体の辺の長さを誤ったり、四角すいの体積を求める公式を誤ったり、四角すいの底面と高さを正しく捉えられなかったりしたためと考えられる。また、[問2] では、誤答率が53.9%、無答率が28.4%であった。これは、直方体の中にできた三角形の高さを1辺とする直角三角形を見いだすことができず、三平方の定理を用いて高さを求めることができなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	[問1]	5	91.5%	☆65.1%
	[問2]	5	26.9%	
	[問3]	5	73.5%	
	[問4]	5	66.4%	
	[問5]	5	80.8%	
	[問6]	5	79.4%	
	※ [問7]	5	60.3%	
	[問8]	5	48.5%	
	[問9]	6	☆58.5%	
2	※ [問1]	5	69.6%	☆45.0%
	[問2]	7	☆20.4%	
3	※ [問1]	5	76.5%	54.0%
	※ [問2]	5	71.0%	
	[問3]	5	14.7%	
4	※ [問1]	5	59.6%	☆43.0%
	[問2]	①	7	☆65.8%
		②	5	3.8%
5	[問1]	5	44.0%	30.9%
	[問2]	5	17.8%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率から、計算問題等の基礎的・基本的な事項についての知識及び技能についてはおおむね定着している。しかし、[問2]の正答率から、分数を含む文字式について、項の意味の理解と式を処理する技能を高める指導を充実させる必要がある。4 [問2] ②の正答率から、図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり、それらを組み合わせて考察したりする力が十分ではないと考えられる。条件を適切に読み取ることや、与えられた図形の中の合同な図形や相似な図形、平行線などに着目して、既習事項に関連付けて考える場面を設けた指導を充実させる必要がある。
- (イ) 2 [問2] 及び4 [問2] ①の正答率から、根拠に基づいた立式や説明をする力が十分ではないと考えられる。問題文から条件を読み取り立式する指導、推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導の充実が必要である。また、考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を高める指導を充実させる必要がある。
- (ウ) 5の正答率から、図形の性質や関係を直観的に捉え、空間内にある直線と平面の位置関係や、立体の中にできる平面等を正確に把握する力が十分ではないと考えられる。実際に立体を作ることや、立体の見取図、展開図、投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取ることなどを通して、空間における図形の位置関係を捉えたり、空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3) 英語

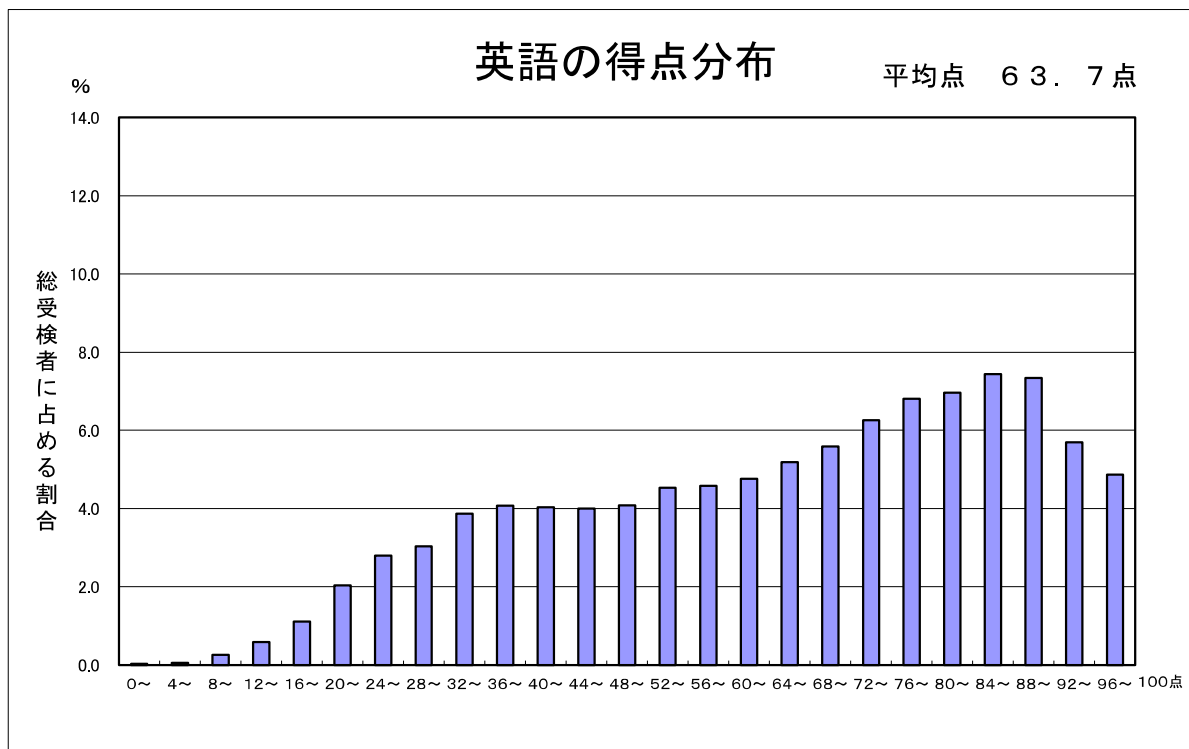
ア 出題の方針

簡単な英語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解するとともに，自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて，その具体的な内容や大切な部分を把握したり，聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに，必要な情報を得たり，自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み，その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み，そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は63.7点となり，昨年度より3.2ポイント下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度と同様に84点～87点となり，80点以上の受検者の割合が36.0%から32.3%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 今後の予定に関するやり取りや、商業施設の館内放送などを聞き、具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。
- 2 高校生と留学生が、タウンフェスティバルについてのチラシやパンフレットを見ながら、週末の予定と待ち合わせ場所について話し合う場面と、参加する活動について話し合う場面を題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な問題を解決する能力をみる問題とした。
- また、帰国した留学生からのEメールに返信する場面を設定し、「もっと練習したいこと」について、自分の考えやそれを取り上げた理由を英語で表現する能力をみる問題とした。
- 3 中学生と留学生が、身近にあるものを調べる中で、興味のあることについて、学びを深めていく楽しさに気付くという内容の対話文を読み、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。
- 4 高校生の主人公が、ボランティアスタッフとして働く経験を通して、心配しすぎず、一歩踏み出して行動を起こすことの大切さに気付くという内容の物語文を読み、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 Aの〈対話文3〉では、「ウ」という誤答が多かった。これは、対話から話者の意向を正確に把握することができなかつたためと考えられる。また、Bの〈Question 2〉では、“We can show pictures.”や“It is five p.m.”などとする誤答が多かった。これは、館内放送の具体的な内容を十分に理解できず、解答すべき内容を英語で正しく書き表すことができなかったためと考えられる。
- 2 1では、「イ」という誤答が多かった。これは、対話から、留学生にとって最適な路線と駅がどこかを理解し、待ち合わせ場所を適切に選ぶことができなかったためと考えられる。また、3(2)では、「もっと練習したいこと」という主題を正確に理解できなかったり、自分の考えを英語で正しく表現できなかったりした解答が見られた。
- 3 〔問3〕では、「ア」という誤答が多かった。また、〔問7〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、対話の流れを時系列に沿って理解することができなかつたためと考えられる。
- 4 〔問2〕では、「ウ」と「ア」を取り違える誤答が多かった。これは、本文中の一部の表現のみに基づいて登場人物の心情等を判断し、本文において「ア」に該当する部分がどこかを読み取ることができなかったためと考えられる。また、〔問3〕(3)では、「エ」という誤答が多かった。これは、物語全体を通じた登場人物の心情等の把握が十分でなかったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1及び2の正答率から、まとまりのある文章を聞いたり読んだりする際、コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、必要な情報、概要、要点を捉える力を高める指導を充実させることが必要である。また、聞いたり読んだりしたことについて生徒が自分の考えや気持ちを話したり書いたりするなどの複数の領域を統合した言語活動を通して、既習の語彙や表現の活用を促し、その定着を図る指導の充実が必要である。
- (イ) 3及び4の正答率から、まとまりのある文章を読む際に、時系列に沿って対話の流れや登場人物の考えを把握する力、物語文のあらすじや登場人物の心情を把握する力を高める指導の充実が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※A	〈対話文1〉	4	61.7%
		〈対話文2〉	4	60.3%
		〈対話文3〉	4	33.1%
	B	※〈Question 1〉	4	71.1%
		〈Question 2〉	4	☆36.5%
2	※1		4	53.3%
	※2		4	61.8%
	3	※(1)	4	68.0%
		(2)	12	☆53.7%
3	※〔問1〕		4	77.8%
	※〔問2〕		4	82.9%
	※〔問3〕		4	40.0%
	※〔問4〕		4	58.2%
	※〔問5〕		4	66.2%
	※〔問6〕		4	67.4%
	※〔問7〕		4	40.9%
4	※〔問1〕		4	67.1%
	〔問2〕		4	36.2%
	※〔問3〕	(1)	4	68.9%
		(2)	4	58.3%
		(3)	4	35.7%
	※〔問4〕	(1)	4	54.7%
		(2)	4	53.9%

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(4) 社会

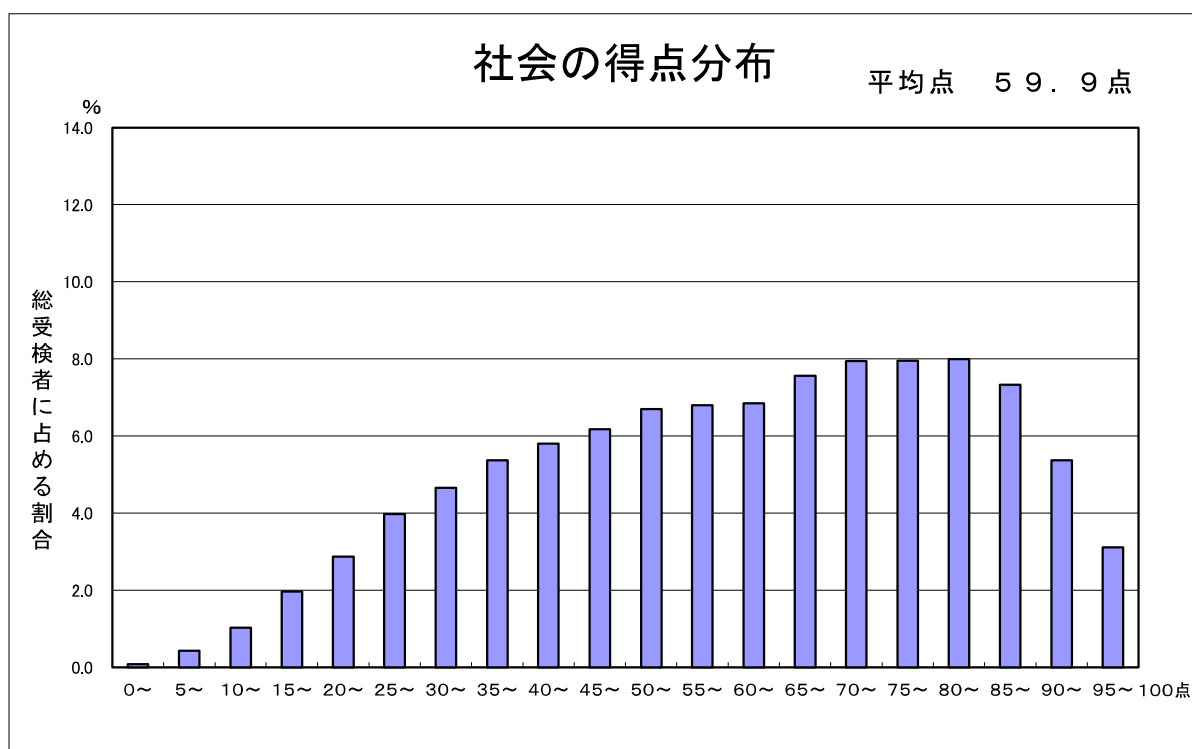
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図やグラフ等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は59.9点となり，昨年度より4.4ポイント上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の70点～74点から80点～84点に移り，80点以上の受検者の割合が18.7%から23.8%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- ① 資料と景観写真から読み取った情報を基にした地形図の判別、天皇が政治の実権を取り戻すために起こした戦い、歳入の種類について問う問題とした。
- ② 工業を題材として、自然環境と繊維工業の様子及び世界の気候、自動車工業の様子、我が国との結び付きについて地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる問題とした。
- ③ 観光を題材として、我が国の自然環境と国立公園の景観、観光農園と果実収穫量に関する統計等から、地域的特色について考察する能力や、資料から読み取れる、将来のひたちなか市における観光地への交通の利便性の変化について適切に表現する能力をみる問題とした。
- ④ 美術を題材として、古代から中世にかけての各時代の権力者が造営した建築物、室町時代から江戸時代にかけて描かれた絵画などの時期について考察する能力、江戸時代末期から明治時代の美術に関する主な出来事の資料を活用し、万国博覧会の絵画の出品数の変化について適切に表現する能力、大正時代から平成時代の美術に関する主な出来事の内容と時期について考察する能力をみる問題とした。
- ⑤ 労働を題材として、社会権を規定している日本国憲法の条文、労働者を保護する法律、財政政策と金融政策について考察する能力や、資料を活用し、労働力の変化における情報通信技術（ＩＣＴ）の利点について適切に表現する能力をみる問題とした。
- ⑥ 人とモノの移動を題材として、農産物などの生産や日本での加工の様子、経済成長率の推移、世界の人口に占める世界の州別の割合や日本の輸出額に占める世界の州別の割合について、3分野から総合的に考察する能力をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	5	83.1%	66.4%
	※〔問 2〕	5	64.8%	
	※〔問 3〕	5	51.4%	
2	※〔問 1〕	5	57.4%	51.5%
	※〔問 2〕	5	51.4%	
	※〔問 3〕	5	45.8%	
3	※〔問 1〕	5	54.4%	☆55.1%
	※〔問 2〕	5	45.0%	
	〔問 3〕	5	☆65.8%	
4	※〔問 1〕	5	54.3%	☆48.8%
	※〔問 2〕	5	36.1%	
	〔問 3〕	5	☆68.4%	
	※〔問 4〕	5	36.1%	
5	※〔問 1〕	5	49.2%	☆55.5%
	※〔問 2〕	5	73.4%	
	※〔問 3〕	5	41.1%	
	〔問 4〕	5	☆58.1%	
6	※〔問 1〕	5	55.9%	45.0%
	※〔問 2〕	5	34.7%	
	※〔問 3〕	5	44.4%	
(注 1) ☆は部分正答も含めた割合				
(注 2) ※は記号選択式の問題				

(イ) 主な誤答例等

- ① 〔問 3〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、地方公共団体の歳入の内訳についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- ② 〔問 3〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、説明文の内容から統計資料を正しく読み取ることができていたが、首都の位置や工業の特色を関連付けて国を特定することができなかったためと考えられる。
- ③ 〔問 2〕では、「Wーア」という誤答が多かった。これは、説明文の内容から県を特定することができていたが、果実の収穫量の特色を理解し、統計資料からイを特定することができなかったためと考えられる。
- ④ 〔問 2〕では、「エ→イ→ウ→ア」という誤答が多かった。これは、元禄文化と化政文化についての理解が十分ではなかったためと考えられる。また、〔問 4〕では、「イ→ウ→ア→エ」という誤答が多かった。これは、高度経済成長やバブル経済についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- ⑤ 〔問 1〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、社会権に関する理解が十分ではなかったためと考えられる。また、〔問 3〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、経済政策に関する理解が十分ではなかったためと考えられる。
- ⑥ 〔問 2〕では、「X」という誤答が多かった。これは、説明文の内容から国を特定することができなかったためと考えられる。また、〔問 3〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、世界の人口に占める世界の州別の割合や日本の輸出相手国に関する理解が十分ではなかったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については、地形図や雨温図の読図、統計資料の読み取りなど基礎的・基本的な地理的技能を身に付けさせる指導を継続することが必要である。また、地図帳を活用し、複数の地理情報を関連付けて考察し、地域的特色を理解する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 歴史的分野については、我が国の歴史の大きな流れについて、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させる指導を継続することが必要である。また、様々な資料を活用し、歴史的事象を考察する学習活動の一層の充実が必要である。
- (ウ) 公民的分野については、日本国憲法の基本的な考えや、政治や経済の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて理解させる指導を継続することが必要である。また、統計等の資料を活用して多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉える学習活動の一層の充実が必要である。
- (エ) 論述問題については、社会的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付ける学習活動の一層の充実が必要である。

(5) 理科

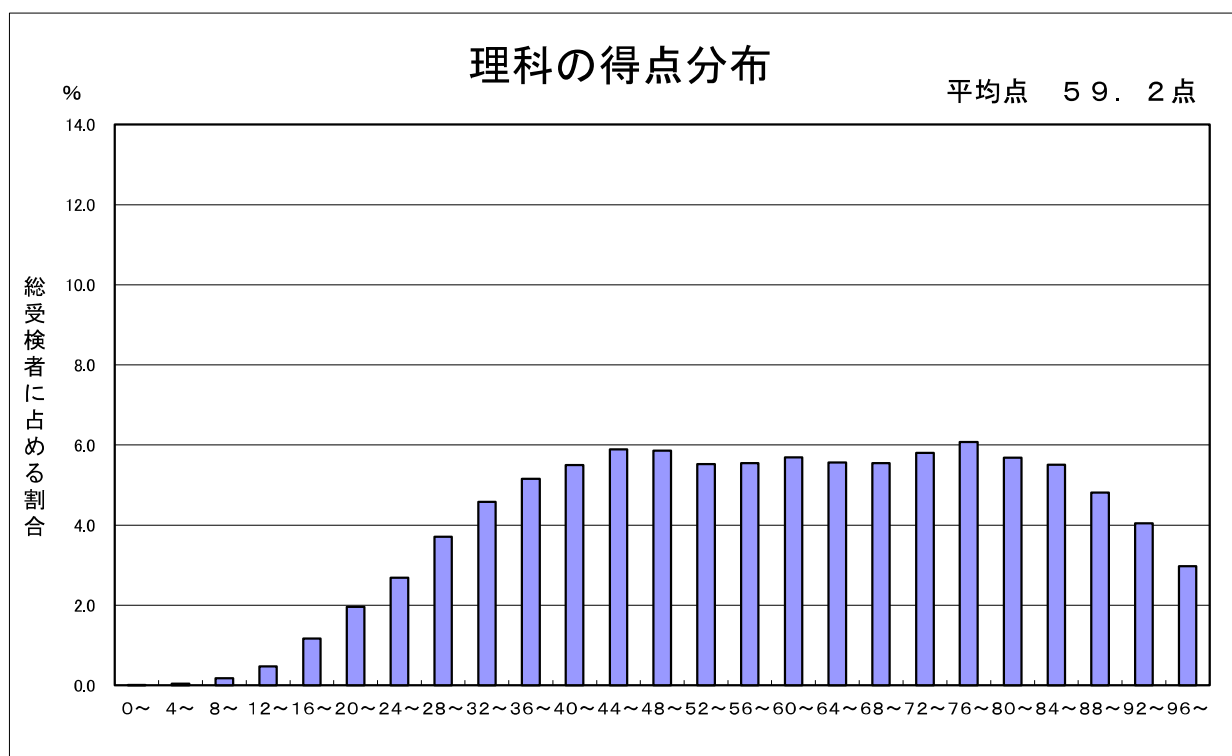
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的に探究する活動を通して思考力、判断力、表現力等をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（「エネルギー」や「粒子」）と第2分野（「生命」や「地球」）の各領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる。
- 3 「地球」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、観察を通して科学的な思考力、判断力をみる。
- 4 「生命」を柱にする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力をみる。
- 5 「粒子」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力、表現力をみる。
- 6 「エネルギー」を柱とする領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、実験を通して科学的な思考力、判断力、表現力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は59.2点となり、昨年度より7.6ポイント下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の84～87点から76点～79点に移り、80点以上の受検者の割合は26.1%から23.0%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題とした。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 3 地層と岩石の観察を通して、大地の成り立ちと変化についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 4 生物の成長と細胞に関する実験を通して、生物の成長と殖え方についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力をみる問題とした。
- 5 物質の変化を調べる実験を通して、化学変化や物質の成り立ちについての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題とした。
- 6 電流と磁界に関する実験を通して、電流が作る磁界や磁界中の電流が受ける力についての知識及び技能をみるとともに、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問 3〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、光が屈折するときの規則性についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 2 〔問 3〕の①では、「イ」という誤答が多かった。これは、湿度、飽和水蒸気量及び空気に含まれる水蒸気量の関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。また、〔問 4〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、力のつり合いについての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 3 〔問 3〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、地層の広がり方の規則性についての理解が十分でなかったためと考えられる。また、〔問 4〕の②では「イ」、④では「ア」という誤答が多かった。これは、地層の構成物から地層のでき方を考察する力が十分でなかったためと考えられる。
- 4 〔問 2〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、体細胞分裂の過程における染色体の複製についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 5 〔問 3〕の①では、「ウ」という誤答が多かった。これは、溶解度についての理解が十分でなかったためと考えられる。また、〔問 4〕の②では、「ア」という誤答が多かった。これは、酸化銀の化学式が表す銀原子や酸素原子の数の関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 6 〔問 1〕の②では、「ア」という誤答が多かった。これは、電圧が一定のときに、抵抗の変化に伴う電力量の変化についての理解が十分でなかったためと考えられる。〔問 2〕では「ウ」という誤答が多かった。これは、電流と電流が作る磁界の関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。〔問 3〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、電流と電流が磁界から受ける力の関係を実験を通して見いだす力が十分でなかったためと考えられる。〔問 4〕では、「抵抗器 Y を並列につなぐことによって、流れる電流の大きさが小さくなる」という誤答が多かった。これは、合成抵抗についての理解が十分でなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	4	85.1%	63.0%
	※〔問 2〕	4	58.5%	
	※〔問 3〕	4	46.8%	
	※〔問 4〕	4	54.9%	
	※〔問 5〕	4	70.3%	
	※〔問 6〕	4	62.4%	
2	※〔問 1〕	4	72.3%	47.8%
	※〔問 2〕	4	54.0%	
	※〔問 3〕	4	39.0%	
	※〔問 4〕	4	25.8%	
3	※〔問 1〕	4	50.2%	48.7%
	※〔問 2〕	4	56.7%	
	※〔問 3〕	4	38.6%	
	※〔問 4〕	4	49.3%	
4	※〔問 1〕	4	80.9%	69.7%
	※〔問 2〕	4	58.8%	
	※〔問 3〕	4	69.4%	
5	〔問 1〕	4	☆55.5%	☆39.6%
	※〔問 2〕	4	51.5%	
	※〔問 3〕	4	28.9%	
	※〔問 4〕	4	22.6%	
6	※〔問 1〕	4	41.6%	☆39.8%
	※〔問 2〕	4	45.6%	
	※〔問 3〕	4	36.9%	
	〔問 4〕	4	☆35.1%	
(注 1) ☆は部分正答も含めた割合				
(注 2) ※は記号選択式の問題				

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 2 〔問 4〕の正答率が低いことから、力の働きや規則性について、図や実験結果を分析して解釈することに課題があると考えられる。原理や法則などを深められる探究の過程を通して思考力、判断力を育成する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 5 〔問 4〕の正答率が低いことから、化学式の理解に課題があると考えられる。探究の過程を通して原子や分子のモデルを用いて考察し、微視的に事物・現象を捉える学習活動の一層の充実が必要である。